子育てかわら版 第21号

園長だより１４２号復刻

過去の園長だよりです

平成２０年４月１６日発行

子育ては総合力 Ⅰ

《年齢に応じた発達課題がある》

九州大谷短大山田真理子先生の意見を取り入れながら

宮城県のカキ養殖業者が山に木を植え、美味しくて大きく形の良いカキを作ることに成功しました。「海の養分は太平洋が運んでくれると思っていたが、実際は山から川が運んでいることが分かった」。

そこで、美味しいカキを作るためには山が豊かでなければならないと思い、山に木を植えることを思いついたそうです。

山に木を植え続けて来て、19年が経ち、ここ数年間は毎年カキが美味しくなっている、そして、大きくなり、形も良くなっていると言っています。それは、海水の質が変わったから、すなわち、海水の養分を吸収して黙っていても大きくておいしくて形の良いカキが取れるようになったということです。

木を植え始めた頃は誰からも理解されなかったのではないでしょうか。とても壮大で勇気ある行動だと思います。

子育ても同じように将来立派な自立した人間にするためには、すぐには結果が出ないけれど総合的で壮大な関わりが必要です。特に乳幼児期はすぐには結果が出ない直接関係のないことばかりしていかなければならないことが多いと思います。

最近、人とのコミュニケーションがうまくできない若者が多くなっていることが社会問題化しています。また簡単に人を殺す、それも家族を殺す若者が増えたと言われ、命の尊さをもっと教えなければならないと大臣が発言したりしています。しかし、命の尊さの実感やコミュニケーションの力は学校で教えたから身につくものではないと思います。

0歳児の発達課題

お母さんに抱かれ、泣く以外何もできない0歳児が、お腹が空いたとき、あるいはおしめが濡れたとき、泣いて不快を訴えると、かいがいしく世話をしてもらい不快を取除いてもらいます。この経験を通して自分はなんてすばらしい世界に生まれて来たのだろう、自分はこの世に生きて良いんだという人生の上で最も基本となる生命力、世界や人間に対する基本的信頼感、生きていく自信が育まれます。その土台の上に世話をされることやスキンシップなどを通してコミュニケーション能力が育ってきます

0歳の赤ちゃんができることといったら、泣くことくらいしか出来ませんが、この泣くことしかできないことがすばらしい能力なのだと思います。泣くことしか出来ないから、代わりにやってもらう経験を通して、自分のためにしてくれる人がいることを知り、自分がしてもらったから他人にもしてあげることが出来る。こうやって、優しさや思いやりを母親から受け継いでいくのです。さらに、こういった感情は0歳児ですから意識の中に記憶していくのではなく、無意識の中に蓄積されていくものです。

しかしこの無意識（あるいは潜在意識）の中に蓄積されるということはとても大きな意味があります。それは、氷山の一角で表される様に水面から上に出ている部分が意識の部分であるのに対し、水の中にあって見えませんがそれよりはるかに大きな部分が無意識（潜在意識）であると例えられます。そして、人間の行動というのは意識によって決定付けられているのではなく潜在意識によって決定していると言われているからです。昔から『三つ子の魂百までも』といわれるように人生においてかなり早い時期にその人の人間性の基礎はほとんど固まってしまいます。乳幼児の教育というのは丁度おいしいカキを作るために山に木を植える事に当たるのではないでしょうか。目には見えなくても人間性を決定付ける大きな働きをしていると思います。その結果が思春期以降に現れてきます。